

1 学校教育目標

「夢実現 ～百見は一験に如かず～」

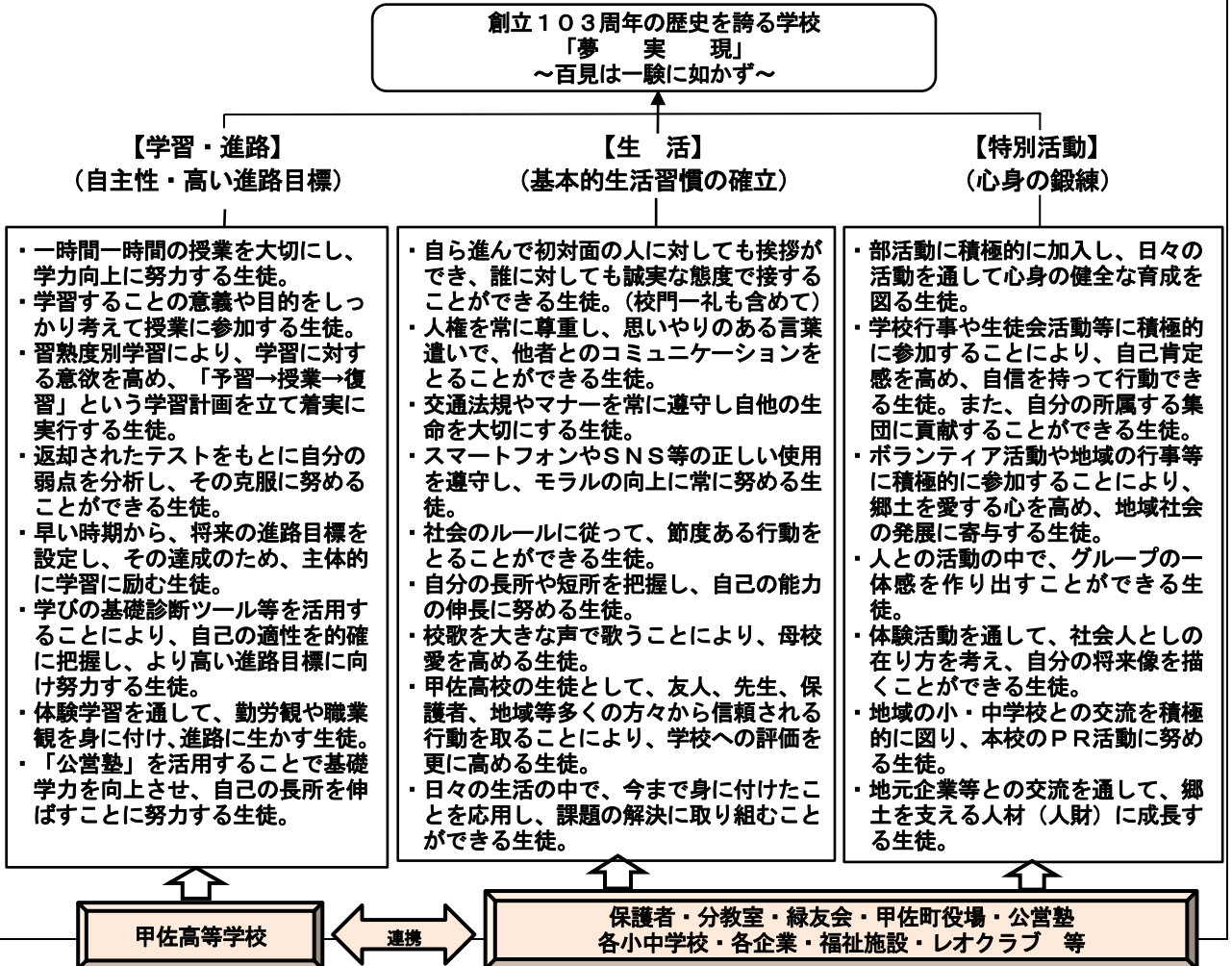
ア 教育方針

- (ア) 県教育委員会関係課から出されている「令和5年度教育指導の重点及び取組の方向」を基本に、本校「五綱領」を踏まえ、社会に貢献する生徒の育成をめざす。
- (イ) カリキュラム・マネジメントを推進し、チーム学校の一員として、生徒・職員・家庭・地域一体となって、活気ある学校づくりを目指す。

イ 教育目標

- (ア) 健全な心身の育成
 - ①学校の教育活動全体を通して、人権尊重、道徳を含む生徒の心身の向上に努める。
 - ②体験学習・ボランティア活動を通じて、人を思いやる心(怒の心)や、奉仕する心を育てる。
 - ③部活動を活発化させ、行動力、協調性、社会性を磨く。
 - ④教育環境を整備し、生徒の健康・安全教育の徹底を図る。
- (イ) 学力向上と進路指導の充実
 - ①一人ひとりの学力や個性に応じた「参加する授業」を工夫し、自ら学び考える力を育成する。
 - ②面談やLHR等を通じて、将来の進路目標を早期に設定できるように援助し、キャリア教育の視点から自己実現に取り組ませる。
- (ウ) 地域社会と連携した学校づくり
 - ①一人ひとりの活動する機会を工夫する。
 - ②地域社会との連携を通して、あいさつやマナー等基本的な生活習慣を身につけさせる。
 - ③地域と連携した教育実践を更にすすめる。
 - ④創立百周年の記念事業を終え、今後も地域の方々に来校いただく機会を増やすことにより、学校、生徒理解につなげ、信頼される学校づくりを目指す。
- (エ) 郷土を支える人材(人財)の育成
 - ①地域の方々と触れ合う機会を通して、郷土への理解を深めると同時に、郷土を愛する心を育てる。
 - ②地域創生の観点からも、将来的に地域の経済社会を担っていく人材、ひいては、組織の中で必要とされる人的な財産としての人材を育成する。

ウ 熊本県立甲佐高等学校の目指す生徒像



2 本年度の重点目標						
ア 基本的な生活習慣の確立						
(ア) 正しい言葉遣い、爽やかなあいさつを身につけさせ、社会に適応する力を育てる。						
(イ) 時間を厳守し、遅刻や欠席のない生活習慣や身だしなみを確立する。						
(ウ) 交通マナーやSNS等、社会のルールに対する規範意識を高めさせ、地域を支える人材を育てる。						
(エ) クラスや地域に貢献し、甲佐高校生として自覚と誇りを育てる。						
イ 教師の授業力向上、個に応じた学習指導と進路指導						
(ア) 「授業力」の向上						
生徒が主体となる授業の工夫を重ねるための授業研究、公開授業を活用する。また、生徒からの授業評価を日々の授業の実践に生かす。						
(イ) 個別の添削、面接指導等により個々の能力に応じたきめ細かな指導を行う。						
(ウ) 夢実現のため図書館や進路指導部等の活用をすすめる。						
(エ) 日々の教育活動を通じて生徒理解に努め、共通理解を図る。						
ウ 特別活動（生徒会・部活動等）を生かした自主性、創造性、奉仕の精神などの育成						
(ア) 部活動や委員会活動等への積極的に参加できるよう運営や時間を工夫し、教育活動全般を通じて人権教育、道徳教育を行う。						
(イ) 学校行事、ボランティア活動などを通じて、自ら考え、自ら行動できる生徒に育て、将来的に郷土を支える人材（人財）を育成する。						
エ 地域と連携した教育活動						
(ア) 広報活動や学校運営協議会（総合型コミュニティスクール）等を通じて、地域社会に対し本校教育への理解と協力を深める。						
(イ) 保護者との面談や家庭訪問を計画的に行い、家庭と学校の連携を密にするとともに地域社会、特に小・中学校との連携を深める。						
(ウ) 職員の中学校別担当制を更に充実させ、中学校へのPR活動等を強化することにより、入学者増を図る。						
※熊本スーパーハイスクール（KSH）構想のクリエイトハイスクール、スーパーグローバルハイスクールの指定を受け、地域連携・協働による教育活動に誠意をもって丁寧に取り組み、更なる充実を図る。						
オ 言語環境の整備						
(ア) 学校生活全体を通じて、言語に関する理解や関心を深め、言語環境を整えるとともに総合的な言語能力（読む・書く・聞く・話す）の習得並びに実践する態度を養う。						
(イ) 図書館の充実を図る。						
カ 教育相談体制の充実						
(ア) 全ての教育活動を通して、生徒理解と実態把握に努め、心の教育の充実を図る。						
(イ) 各校務分掌や教職員間の情報共有を図り、いじめの早期発見や対応、特別な配慮を要する生徒への対応等、教育相談体制を更に充実させる。						
(ウ) 中高連携を更に充実させ、生徒を支援する組織力を高めると共に、日々の学校生活に有用感や達成感等を得させ、進路変更を減少させる。						
キ 防災教育の徹底						
(ア) 熊本地震や令和2年7月豪雨を教訓とした防災教育の充実を図る。						
(イ) 地域社会、関係機関等との連携を更に図り、風水害等の災害に適切に対応する防災体制を強化する。						

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	魅力ある学校	自ら気付き考え行動する生徒の育成	・学校行事等に自ら積極的・創造的に参加する	・全ての学校行事に生徒を中心に創作的な企画と運営に取組ませる ・学校行事での役割分担と協力体制を明確にし生徒一人ひとりが達成感を味わえるようにする	A	・学校行事において目的と生徒一人一人の役割を明確にして取り組ませた結果、諸アンケートにおいて満足度の高い結果を得るに至った。

	体験学習・ボランティア活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 自ら積極的に体験することで、奉仕や勤労、命を大切にし人権を尊重する心を育む 	<ul style="list-style-type: none"> 普通科の地域探究活動福祉コースの介護福祉体験、ビジネス情報科の校外実習をとおして進路目標につなぐ 校外でのボランティア活動に積極的に参加し人を思いやる心と奉仕の心を育てる 	A	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの学科、コースで計画した体験活動を実施し新しい発見とともに自己の進路に役立てることができた。 町のボランティア活動に協力する機会を得た。
	部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して活発に活動する部活動の育成 	<ul style="list-style-type: none"> しっかりとした活動計画を立て、安全で楽しく学べる部活動とする 行動力、協調性、社会性を学び人格形成の場とする 	A	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの部活動で国や県の指針に則った活動を行うことができ、また部活動間の協力体制も構築することができた。
信頼される学校	地域との連携・協力	<ul style="list-style-type: none"> 地域連携を深める事業の構築 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会や関連した会議を通して、連携を深める 公営塾（あゆみ学舎）との情報交換を適宜行い企画参加を促す 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営委員会を年3回開催し、各方面から意見をいただき学校の活性化についての数多くの提案を得た。 あゆみ学舎との連携では必要に応じて情報交換を行いコミュニケーション能力育成の企画と新年度に向けての準備を行った。
	保護者・地域等との連携と広報	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信の強化 次年度の入学生40人以上、最低でも30人以上を目標とする 	<ul style="list-style-type: none"> HPの随時更新、「学校だより」の毎月発行広報甲佐への投稿、安心メールによる情報提供により、本校の教育活動を積極的に発信し魅力を伝える。 中学校を定期的に訪問する 	A	<ul style="list-style-type: none"> HPの」回数を格段に増やし情報発信を強化した。 学校だよりの発行と配布を行った。 安心メールにより安全安心な学校生活の確保ができた ONETEAMプロジェクトにより、これまでにない中学校への訪問機会を持ち本校の学びについて伝え本校のPRをする機会を得た。 高校入試の前後期あわせて39人が出願し、7年ぶりに入学者が増加に転じた。
	緊急時対応の充実	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理マニュアル、緊急時対応マニュアルや安心メールを活用し防災意識や危機管理対応力を高める 	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時対応マニュアルを基に避難訓練や救急救命講習等を実施する 大規模災害の発生を想定した対応訓練の実施 危機管理マニュアルの改訂と充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時対応マニュアルに緊急時避難計画マニュアルを付け加え、より安全対策を進めた。 地域住民とともに避難訓練を実施した。 全職員・全生徒で緊急救命講習を実施し

						危機発生時の動きを 実践した。
業務改善・働き方改革	職員の連携 と共通理解	<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革の推進を踏まえた校務運営の改善 生徒との関わりの時間を確保し生徒の不安や困り感を解消できる環境をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> 職員朝会の縮減 職員会議や職員研修でのタブレットの利用 ICTを活用した業務の効率化を図る 毎月衛生推進委員会を実施し、勤務状況を把握、分析し対応策を全体にアナウンスし個々に示す 業務の見える化を全部署で行い、全職員で共通理解を図りながら校務を行う 生徒・保護者とのかかわりを丁寧に行い信頼関係を築き、将来の目標を設定し、その実現に向けて協働する 	A	<ul style="list-style-type: none"> 衛生推進委員会を毎月実施し、職員の健康状況の把握や情報共有を行い業務や個人の働き方の見直しを職員会議で周知した。その結果、確実に昨年度よりも超過時間の減少が見られた。 生徒一人一人の課題を校内研修会等をとおして全職員が把握しながら指導を行うことができた。 	
	会議等の効率化と研修の深化	<ul style="list-style-type: none"> 連絡体制の簡素化と充実を図る 職員研修の充実を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ゆうネットの連絡回覧板活用について示し、利活用する 職員研修を長期休業日期間に実施する 	B	<ul style="list-style-type: none"> 考査期間中の午後の時間に休みが取れるように行事を入れないうことや、長期休業中や長期休業明けに集中して職員研修を行った。テーマを複数にわたって準備でき、効率の良い研修となった。 	
学力向上	授業力の向上	「分かる授業づくり」の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業の積極的な実施 公開授業の活発化 ユニバーサルデザインの授業づくり ICT機器の利活用 アクティブラーニングの推進 	<ul style="list-style-type: none"> 授業評価アンケートの実施 公開授業週間の設定、積極的参観、地域・関係各所への案内 	A	<ul style="list-style-type: none"> 本校授業見学数の増加、前期受検生が増加した。本校生徒が落ち着いた環境で学習に取り組んでいる成果である。これからも大切にしていきたい。
	個に応じた分かる学習指導	授業の理解と個別指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 授業理解についての肯定的評価を80%以上とする 学習指導および評価が一貫した授業展開 	<ul style="list-style-type: none"> 指導法、生徒理解情報の共有 身近な題材、体験的活動的な学習 観点別評価の更なる充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> 授業評価アンケートにおいて、「授業がわかる」という回答が90%以上で先生方の工夫の成果が見られた。

	学習に対する意欲・姿勢	自ら学ぶ意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に対して、自ら意欲的に取り組んだ体験を持つ生徒を100%とする 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育の視点に立った、個々に応じた授業づくり ・基礎基本の徹底、課題学習 ・将来（進路）につなげる学習指導 ・あゆみ学舎（公営塾）との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒発表の場面が多くなり、自ら課題解決に向かう姿が目立った。反面、欠席が多い生徒の改善が進まず学校の授業についていくのがやっとの生徒も多かった。
キャリア教育（進路指導）	自らの可能性に挑戦し進路目標の実現を目指す	自己実現に繋がる早期の目標設定	<ul style="list-style-type: none"> ・進路目標の早期設定（3年次7月までに100%） 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の視点に立った進路学習の実施 ・進路ガイダンス等への参加 ・タイムリーな進路情報の提供 ・二者面談や三者面談の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・進路目標の設定は目標の数値を達成した。 ・情報提供のために参加型・情報収集型の指導を行い、早期の進路意識向上に努めた。
		進路目標実現のための努力	<ul style="list-style-type: none"> ・就職・進学希望者全員の進路目標達成 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な進路情報の収集と提供 ・3学年や各教科との連携、情報の共有 ・個別学習指導の実施 ・進路ガイダンスや職場見学の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集・提供を細やかにを行い、生徒それぞれの進路目標の達成につなげた。 ・学校説明会や応募前職場見学への積極的な参加を促すことで生徒の意欲を高めることができた。
生徒指導	個を尊重した生徒指導	基本的な生活習慣と言語環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の適切な言葉遣いを育む ・授業への遅刻をなくす 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面で、全職員が言葉遣いに対する指導の意識を強く持つ。 ・授業時間を守る指導の徹底 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・対職員との会話では言葉遣いに課題が残った。 ・授業の遅刻はほとんどなかった。
		安心・安全	甲佐高校生としての自信と誇り	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動を未然に防ぐ ・生徒会主催行事の充実（体育大会、青垣祭） 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動の未然防止のための職員間の情報共有及び保護者との連携 ・昨年度の反省を生かした企画・運営 	A
		携帯電話の危険回避と適切な利用	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット・SNS利用が関係する問題行動件数の減少 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラル講演会の実施 ・インターネット・SNS利用に関するアンケートの実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・不適切な使用による指導が1件発生した。
		交通安全教育の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故件数ゼロ ・交通違反件数3件以内 	<ul style="list-style-type: none"> ・原付通学生実技講習会の開催 ・通学方法別の状況把握のための校外指導の実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全講習会を実施し交通ルール、マナーを向上させ、交通事故防止を図ることができた。
人権教育の推進	人権尊重の精神	人権に関する理解の深化および豊かな人権感覚の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・人権課題の解決に向けた学習の実施と差別をなくそうとする態度の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育講演会、人権LHRの実施 ・人権が尊重される環境づくり（授業、言語環境等） ・家庭訪問、面談を中心にした背景理解 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育講演会、人権LHRを実施した。家庭訪問や面談を積極的に行い、生徒およびその背景の理解に努めた。

		研修の充実と推進体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な校内研修の実施 年間1回以上の校外研修等への参加 	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育推進委員会の活性化 校内研修の実施 校外研修への参加促進 	A	<ul style="list-style-type: none"> 委員会を毎週実施した。研修も計画的に実施した。 校外研修は全員の参加は難しいが積極的に学習していただいた。
	命を大切にすることを育む指導	自他の命を大切にす 心の育成	<ul style="list-style-type: none"> 「自他の命を大切にす る心」を育む取組の実施 教育相談体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議、研修等による共通理解 相談窓口等の周知 SC、SSW等の専門機関等との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議、研修等による共通理解を図った。相談窓口の一覧プリントを配付するなど周知を行った。SC、SSW等との連携もできた。
いじめの防止等	いじめ防止と早期の発見	「いじめ防止基本方針」及び「いじめを許さない」行動指標の定着	<ul style="list-style-type: none"> 生徒、職員、保護者の連携 学校独自に作成したSNSの使い方・言葉遣い等についての行動指標の点検 	<ul style="list-style-type: none"> 職員研修等の充実 「心の絆を深める月間」に各クラスで代議員が中心となった学習を実施 上の取組の中でSNSの使い方・言葉遣い等についての振り返りを実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> 代議員を中心に生徒主導で「きずな月間プロジェクト」を行いSNSの使い方や言葉遣いについて考える取組を行った。 6月と11月、2月にアンケートを実施した。
		いじめ未然防止のための組織的な取組	<ul style="list-style-type: none"> 生徒、職員、保護者の意識向上によるいじめ未然防止、早期発見、早期対応 	<ul style="list-style-type: none"> 「心の絆を深める月間」の取組等を通してのいじめ防止のための意識向上 いじめ防止対策委員会の充実（定例開催、随時開催） 職員会議、学年会等での共通理解と検証 	A	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止対策委員会を定例で開催した。 情報集約担当者に連絡し組織的に対応することができるようになってきた。
特別支援教育	個々への適切な支援	特別な支援を必要とする生徒の把握・対応	<ul style="list-style-type: none"> 個別の支援計画指導計画の活用 生徒、保護者、専門機関との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 支援計画・指導計画の定期的な評価、検証（校内委員会、職員研修での共有） 各種機関との情報交換 校内研修の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> 共有サーバーのトラブルもあり、支援計画作成に支障があった。 ケース会議等を実施し、専門機関と連携することができた。 就学等支援アドバイザーによる研修を実施することができた。
		コミュニケーションスキルやストレスに対処する力を身につける	<ul style="list-style-type: none"> SST、心理教育の実践 コミュニケーションの機会を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> 交流面談の実施 SST、ストレス対処法LHRの実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> 交流面談を2回実施し、生徒の変容などを知ることができた。 SSTやグループエンカウンターを実施することで、仲間作りに貢献することができた。

保健環境	保健管理意識の高揚	健康に対する自己管理能力を高める	・生徒自身の健康に関する危機管理意識を高める	・けが予防や熱中症予防等健康管理について、個別保健指導や「ほけんだより」による啓発を行う	A	・スポーツフェスティバル前には、けがや熱中症予防の保健だよりを保健委員で作成し、配付した。また、競技前に、熱中症の予防について、保健指導を実施した。熱中症は減少したが、けがの件数は昨年と変わらなかった。
	環境整備	安全管理と主体的に環境美化に取り組む意識の向上	・安全点検の実施 ・環境ISOの周知	・職員による安全点検を学期に1回実施 ・保健環境美化委員による環境ISOチェックの実施（週1回）	A	・各学期、職員により安全点検を行い改善が必要な箇所は速やかに対応できた。 ・各クラスに結果を伝えるという点では十分ではなかった。
地域連携（コミュニティ・スクールなど）	学校運営協議会制度の充実	学校運営協議会の支援による特色ある学校づくり	・学校運営協議会の組織的・継続的な実施（年3回）	・協議内容を精選したうえで活動報告を行う ・担当者との連携を深め、活発な意見交換・情報交換を促進する	B	・学校行事に学校運営協議会委員とのかかわりの中から甲佐高校活性化の提案や町の行事参加により協議会の果たす役割を十分に引き出した。
	地域防災および防災教育の確立	生徒・職員の防災に関する意識の向上	・地域と連携し、地域における防災についての理解を深める ・異世代交流を通じた防災意識の向上	・地域と連携した防災訓練の実施 ・避難訓練と関連付けた防災教育の実施	A	・地域と連携した防災訓練は、本校生徒が高校生としてできることを考える機会となった。 ・避難訓練の際には事前・事後指導を行った。

4 学校関係者評価

昨年度に比べてそれぞれの項目での評価は高く、今年度の取組みは一定の成果を得ることができた。以下は学校関係者から出された評価についての総括的な内容である。

- ・甲佐高校に入学した生徒は中学校時に不登校だった生徒が比較的多いが、登校ができるようになる生徒が多い。手厚い指導がうかがえる。この積み重ねが今年度の志願者増につながっている。
- ・甲佐高校は町の行事参加やボランティア活動が他校より多い。社会貢献ができ、地域に活性化にも役立っている。
- ・甲佐高校の地域連携防災避難訓練をとおして、甲佐高校は地域の人々に災害時に安心感を与える存在となっている。
- ・町の広報誌でも甲佐高校の記事の定期掲載を始めた。公営塾やインターンシップ、地域探究活動でも甲佐町は甲佐高校に協力を続ける。
- ・松橋西支援学校高等部上益城分教室を選ばれる理由の一つに、学校が甲佐高校の高校の敷地内にあり体育大会や文化祭を協働で行うことがあげられる。今後も交流を続けていきたい。
- ・小学生に対しての学習会には感謝している。長いスパンで続けていただき、魅力を伝えていきたい。
- ・甲佐高校の職員・生徒・保護者の人権意識は非常に高く、信頼される学校に値する。

5 総合評価

本年度の学校教育目標についての評価

・地域と連携しながら地域資源を活用し、校内外にて学習の機会を多く持つ教育が幅を増しながらまた、質を高めながら実践できた。また個に応じた指導を全職員の共通理解のもとぶれずに行うことができた。今後も、スクールポリシーのもと、本校の魅力を校内外に広めながら、在校生の満足度を高める教育と進路実現を迫及する教育活動を展開していく。

本年度の重点目標についての評価

・今年度も基本的な生活習慣の確立と生徒支援をベースに、あらゆる教育活動の中で生徒に「主体的」「協働的」を養う教育を行った。生徒の主体的な学習に対する取組のための授業評価アンケートを実施し、PDCAサイクルのもと授業改善を行い、高い評価を得る結果を得た。また、昨年度から引き続き、評価規準の見直しを常に続けながら、生徒の学習に対する意欲や多方面からの評価を構築した。熊本スーパーハイスクール（KSH）事業のクリエイティブハイスクール指定、ONE TEAM事業が昨年度以上に活動を広げ、近隣高校とともに多くの中学校を訪問し、本校の魅力を発信した。魅力推進に欠かせないHPのWeb更新も毎日のように行い、多くのアクセス回数を得た。地域との合同避難訓練や町の文化祭参加により開かれた学校づくりを進めることができた。このような全職員の共通理解のもとでの教育活動の成果が、7年ぶりに新入生を増加させる要因となった。今後も職員、生徒が一丸となり生徒の自己実現と学校の活性化を進める教育活動を展開し、信頼される学校であり続け生徒募集につなぐ。

自己評価総括表に対する評価

・今年度は肯定的な意見が多く、概ね好評を得た。特に、魅力ある学校、信頼される学校、学力向上、安全・安心、いじめ防止、人権教育、特別支援、教育相談体制に関しては具体的な施策も含めて高評価である。今年度の生徒募集に関しては、前期（特色）選抜の受検者が昨年の入学者を上回り、後期（一般）選抜と合わせて減少傾向であった入学者数が上向きに転じた。今後は、教育活動の質を高め、生徒の進路目標達成を進め、他校にはない本校の魅力を発信する機会を多く持ちながら学校経営を進めたい。

6 次年度への課題・改善方策

今年度の本校の教育活動は概ね目標を達成しているものもあれば、まだまだ克服すべき課題が解決されていないことも多く、目標達成に遠いものもある。特に、以下の（１）（２）は今後の生徒募集に深く係る項目として、取組みの柱として強化していきたい。

（１）本校の魅力推進 校内外の教育活動の充実度＋進路保障＝生徒募集

- ①学校HPで本校の活動の紹介が行われているが、タイムリーな日常生活からイベントまでの発信回数を増やす。
- ②県指定事業（KSH）や地域行事への参加等をとおして、本校の魅力が地域の中学校や多くの人に伝わるよう活動幅を広げる。
- ③校内の学校行事の創意工夫により、全員参加型の学校行事をとおし、コミュニケーション能力や主体的、協働的能力の高まりを実感させる教育を行い、市成魅力化を推進する。
- ④生徒の自学力向上のために全校生徒に学習アプリを導入し、組織的な利活用をしながら生徒の学力向上と進路目標達成を実現する。

（２）地域連携の推進

- ①甲佐町だけでなく、他地域とも連携も広げながら、探究活動や行事参加等を計画的に行い校外での学びにより、生徒が将来をデザインする機会を増やす。
- ②本校内に設立されている甲佐町公営塾「あゆみ学舎」との連携を深化させる。特に令和6年度は学習アプリを介した利活用を中心に連携を行う。